

M W 資源環境経済学特別演習 I 議事録
2018年度 第9回

報告題名 (title) :	
農的生活のすすめ 一人間が人間であるためにー	
報告者 (name) 熊谷 駿	日時 11月29日 午後3時~
所属分野 (labo) 環境経済学分野	場所 第5講義室
座長 山田 (開発)	議事録担当者 伊藤 (環境)
出席者 井元、小山田、米澤、冬木、伊藤 (房)、石井、伊藤 (航)、小林、泉井、趙、王 (聰)、大山、熊谷、唐、長尾、古屋、楊、鄒、Boris Kaido、大鐘、ムシエ、孟、山田、王 (澤)、菊地、ADERIBIGBE Afeez Adeteju、Joseph Apor Adjei	
報告要旨 (Abstract)	
研究の背景と課題 (研究の目的) Research Purpose (including Background) ブラック企業や過労死など、日本における就業問題が騒がれている。また、これについて、日本政府は「働き方改革」と称して、企業と労働者（雇用者と被雇用者）の関係を是正すべく議論を続けている。しかし、これはあくまで規則・取り決めによって関係を是正する方法であって、根本的な解決策であるとは必ずしも言えない。 そもそもこの問題は、企業側が労働者を過剰に労働させている（労働力の酷使）という点がキーとなる。その背景には、体力の限界があることを考慮せずに労働者を機械同様に扱い、雇用者の思い通りに働かせようとしているという点が考えられる。 とすれば、人間-人間の関係を人間-機械とみなしていると言える。これは、過剰なモノ（道具）とのつながりがそうさせているのではないか。 また、品種改良や遺伝子組み換えのように、人間にとって都合のよいように植物や動物を改変しようとするのもまた植物や動物を機械のように扱っていると捉えることができよう。 本研究では、人間や自然を機械のように扱おうとする姿勢をモノ的人間関係・モノ的自然観とする。 本研究の目的 「過剰なモノ（道具）とのつながりによって、人間および自然を機械同様に扱おうとする姿勢(モノ的人間関係・モノ的自然観)が生じている可能性があること」を明らかにすることを目的とする。 また、それを多少なりとも和らげるであろう方法として、「農的生活」を提案したい。	
研究方法 (分析モデル) Research Method or Analytical Model (including Data) 質問紙調査 (アンケート) により、研究を行う。	

質疑・応答(Q & A)

①大山さん

今回おっしゃられている、モノ的人間関係・モノ的自然観というのは、国によって価値観って結構(違って)、個人的には、どちらかというと日本にもそういう価値観はあるんですけど、西洋の方が強いかなと思っていて、そういったところの違いとか考慮されるんですか。日本の場合だと、ある一定の周期で、台風とかだったら毎年あったり、大きな地震も数年に一回起きたりという形で、自然と共に生きていくと言ったらいいんですかね、そういったスタンスが多少なりともまだあると思うんですけど、そういったところはどうのように考えているのかな、と。

熊谷さん

台風とか地震とかはありますが、たぶん、「無いに越したことはない」とみんな考えると思います。だから、言い方は悪いですけど、人がたくさん死ぬとか、自分自身も生活が困窮するとか、そういったことはもちろん無い方がいいと日本人でも考えると思うんですけど、でも自然だからどうしようもない、と考えないといけないと思います。日本人でも、みんなたぶん生活が安定している方がいいと思うんですけど、自然というのはそういうものじゃないよね、というふうにちゃんと考えられているかは、日本人でも危ういんじゃないかな(と思う)。

②古屋さん

スライド9枚目のモノ的人間関係・モノ的自然観というのは、これは熊谷さんが定義した内容という理解でいいですか。私この9枚目までのスライドの内容を見たときに、この考え方というのは、例えばデカルトとかマルクスとか、そういったところで既に理論として成り立っているような気がしていて、そのモノ的人間関係・モノ的自然観というのは言葉を替えただけのような印象を私は持ったんですね。ここまでの説明の中で、既往研究との関係性について説明が無かったと思うんですよ。これは熊谷さんの中の一つの考え方だと思うんですけど、過去のこういった考え方については検討されているのでしょうか。

熊谷さん

過去にそういった文献も間違いなく読んでいて、そういう問題意識の影響を受けているとも言えるので、完全に独立した僕の考えとは確かに言えないんですけど、9枚目までは僕の研究を始める最初の違和感というのを大事にして書こうと思ったところなので、多少なりとも影響は受けてますけど、僕の声として書いたつもりです。

古屋さん

だとすると、モノ的の「モノ」というものが私としてはすごく今までにないところなのかなという気がしたので、独自性というのがもうちょっと欲しかったな、というのがコメントです。

③長尾さん

このモノ的關係とか、人間とか自然に対してモノのように扱っているというのが問題意識にあると思うんですけど、実際調査を行うということで、その質問事項は作成中と書いてあるんですけど、この右側の形式的思考というのは結構「モノ的」というよりは「コト的」なことを訊いているのかと思ったりして、これは「モノ」と対応させて作っていたりするのでしょうか。

熊谷さん

上から2つ目の「機械づくりと手作りの同一性」でいうと、実際の質問文ではないですけど、工場で作られたおにぎりと、実際目の前で手作りで作ったおにぎりと、全く味が同じ場合、どちらをあなたは選びますか、という話で、味が同じだったらどっちでもいいじゃんというふうに思うかもしれないんですけど、機械と考えたら、そこへの信頼というか、手作りだとやっぱり手で作られている分、味は同じといえど嫌だという人もいれば、まあ潔癖症とかそういう問題もあると思いますけど、逆にそれに対する愛着とか、手作りだからこそその良さみたいなものを考えている人もいるだろうということで、そういった点を炙り出せるんじゃないかと（考えている）。そういうのを「コト的」と（長尾さんは言っている）？

長尾さん

右側のは特にほとんど「コト」というのに近いのかなと。しかも農的生活について説明されていたんですけど、それに関しては属性の方でしか訊く予定でないのかなと。もう少しわかりやすい質問票を作られればいいのか、というコメントです。

④山田さん

スライドの12枚目のところで、宇沢先生の農業の特徴のところについての質問なんですけど、一番下の、「自らの人格的同一性を維持」するというのは、どういうことなのでしょう。

熊谷さん

工業に限らず、飲食店のアルバイトとかでもいいかもしれないんですけど、ただの労働者としてサービスを提供するとか商品を生産するために働いていればいい。だからAさんが働いていたとして、それがAさんである必要はなくて、その行為、作るための何かをしてくれる人であればいいから、別にBでもCでもいい。というふうなところに対して、その人が、主体性というか、「こうしたい」というのもちゃんと反映して、その人がその人であるアイデンティティを持って生産できる農業の方が相対的に、経営者とか労働者として作れるという点で、人格的同一性と（言っている）。漢字で言っているからわかりにくいかもしれないんですけど、アイデンティティと言っても間違いではないと思います。

山田さん

工業に従事している労働者に比べて、主体性が持てるというところで（人格的同一性と言っている）、という意味ですか。わかりました。

⑤大山さん

10枚目の目的のところ、「モノとのつながりが強くなる状況を軽減する方法として農的生活を提案」されているということだったんですけど、この農的生活によって、モノ的自然観というのは変わるかもしれないんですけど、モノ的人間関係というのは、どういった流れで変わるというか、薄まるというか、影響されるんでしょうか。

熊谷さん

もしかしたら農的生活のところの説明でなかったかもしれないんですけど、基本的な考え方として、共生というのを主義というか基本的なところに置いているので、競争じゃない、仲良くしようということですね。競争だとどんどん追い越せ追い抜けみたいな、すべての人が競争相手みたいな、そういうふうには考えがちなところを、極端に言えばすべての人と仲良くしようみたいな感じ。

大山さん

というのが農的生活をすることによってなるんでしょうか。

熊谷さん

ちょっとはそういう、共生しようという意識が生まれるだろうということですよ。

⑥古屋さん

目的では、モノとのつながりによって自然観とかそういったものが生じているという話だったと思うんですけど、今回の調査対象というのは、「経済と社会」(の履修者)なんで大学一年生だと思うんですけど、モノとのつながりというのは年代によっても当然変わりうる話だと思うんですけど、それについては、この年代だからこそというのを踏まえているんですか。

熊谷さん

もちろん50、60とか高齢者の方になると、相対的に今より便利ではなく、自分たちの力で工夫してうまくやっていこうという生活をしてきたと思うんですけど、それに変わって、僕なんかも含めて、今の若者になると、生まれたときにはもう、いいものというか便利なものばかりで、自分の頭で工夫しようというよりは、あるものを組み合わせて自分の生活をどんどん良くしようみたいなところがあると思うんで、そういった意味では、若者といった人たちのほうが(モノとの)つながりが強いんじゃないかというふうには考えています。